

ノビネチドリ *Neolindleya camtschatica* (Cham.) Nevski

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 1、総点 15。寒冷地性のラン科植物で、愛知県では生育地、個体数ともに少ない。

【形態】

多年生草本。根は一部円柱状に肥厚する。茎は直立し、やや太く、高さ 30~60cm になる。葉は 5~10 個が互生し、楕円形~狭長楕円形、長さ 7~15cm、幅 2~6cm、先端は下部の葉では鈍頭、上部の葉では鋭頭、基部は茎を抱いて葉鞘となり、辺縁は波状に縮れ、脈は裏面に隆起する。花期は 5~7 月、花は茎の上部に穂状となって多数つき、淡紅紫色、苞は披針形、花と同長かそれよりやや長い。がく片は狭卵形で長さ約 5mm、側花弁は斜卵形でがく片より短い。唇弁はくさび状広卵形、がく片よりやや長く、先端は 3 浅裂し、中裂片は側裂片より短い。距は湾曲して前を向き、長さ約 3mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根 (村松正雄 15206, 1994-5-17)、
4 津具 (小林 45467, 1993-7-18)。6 設楽西部
(名倉市ノ瀬, 鳥居喜一 12262, 1957-6-2,
HNSM)、5 稲武 (井山峠, 鳥居喜一 12261,
1961-5-18, HNSM) で採集された標本もある。

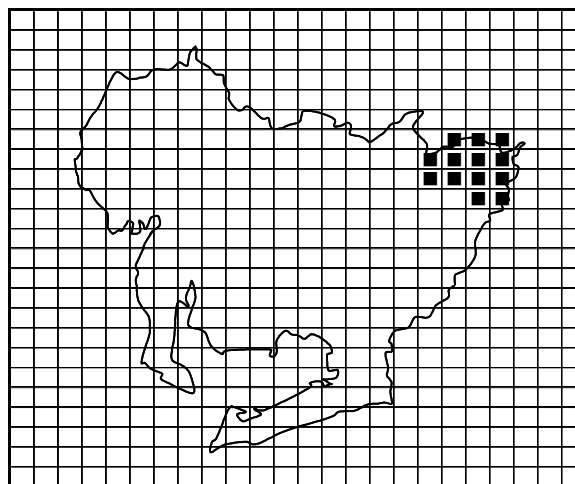
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

カムチャッカ、サハリン、日本、朝鮮半島。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の明るい林内や林縁の草地に生育する。時に林道わきの草地などにも見られる。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

散発的に生育しているだけで、個体数は極めて少ない。紅紫色の花をつけるため、園芸目的で採取されることも多い。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。ただし本種の場合は、好事家の意図的な採取よりもむしろ一般人の行きずりの採取の影響が大きい。自然物は公共の資産であり、個人の庭に取り込んではいならないという意識を、できるだけ多くの人に持ってもらうことが必要である。

【特記事項】

和名は根が円柱状に伸びるからで、テガタチドリに対する名である。

【関連文献】

保草本Ⅲp.15, 平草本 I p.201, 平新版 1 p.214, SOS 旧版 p.111.